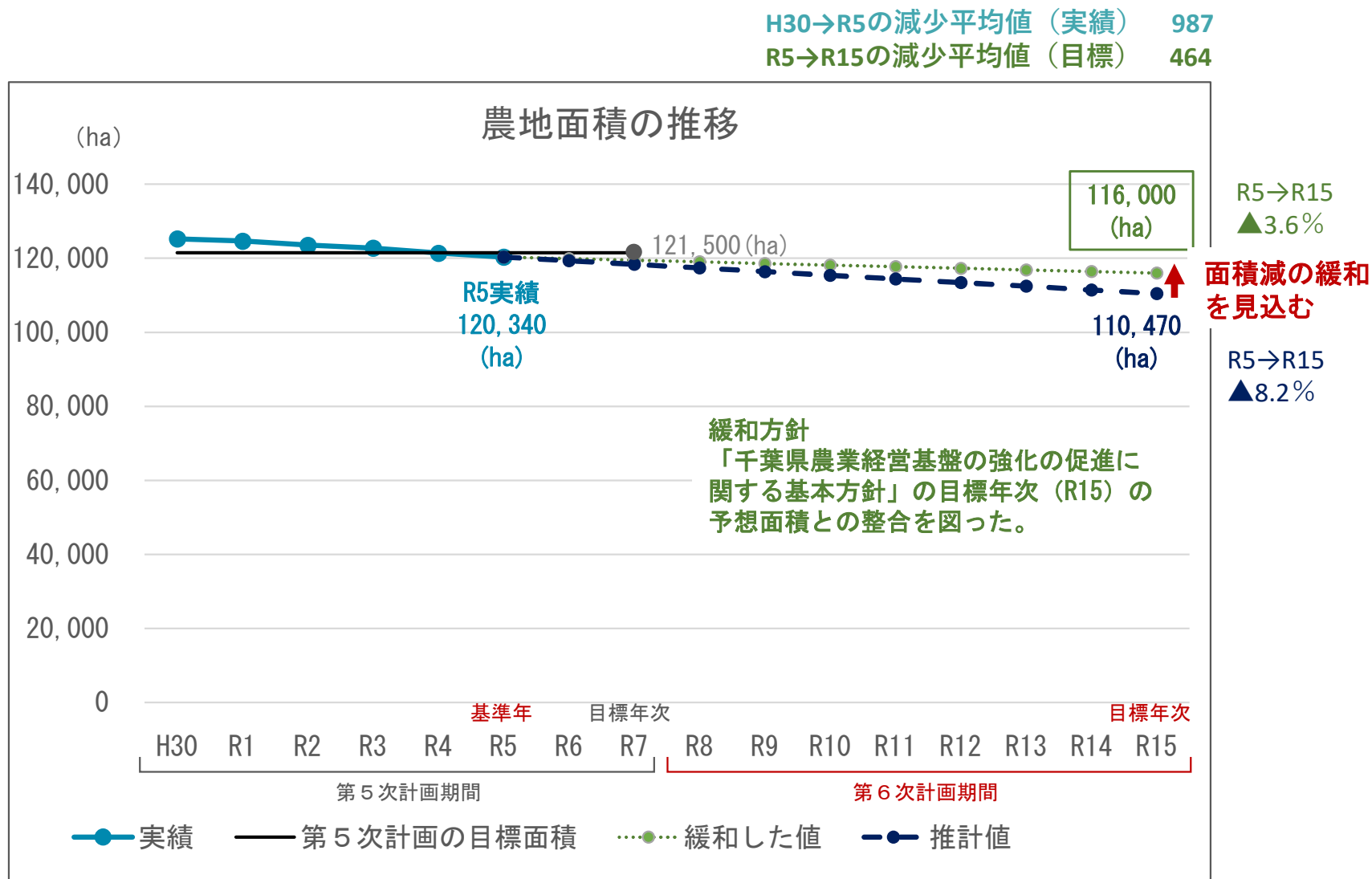


利用区分に応じた規模の目標

■農地 【耕作の目的に供される土地（畦畔含む）】

農地面積は、宅地への転用や荒廃農地の発生等により減少傾向にあるが、安定的な食料供給力の確保を図る観点から、農業振興地域制度、農地転用許可制度等の適正な運用と荒廃農地の抑制・解消などの取組を進めることを踏まえ、面積目標は116,000haとする。



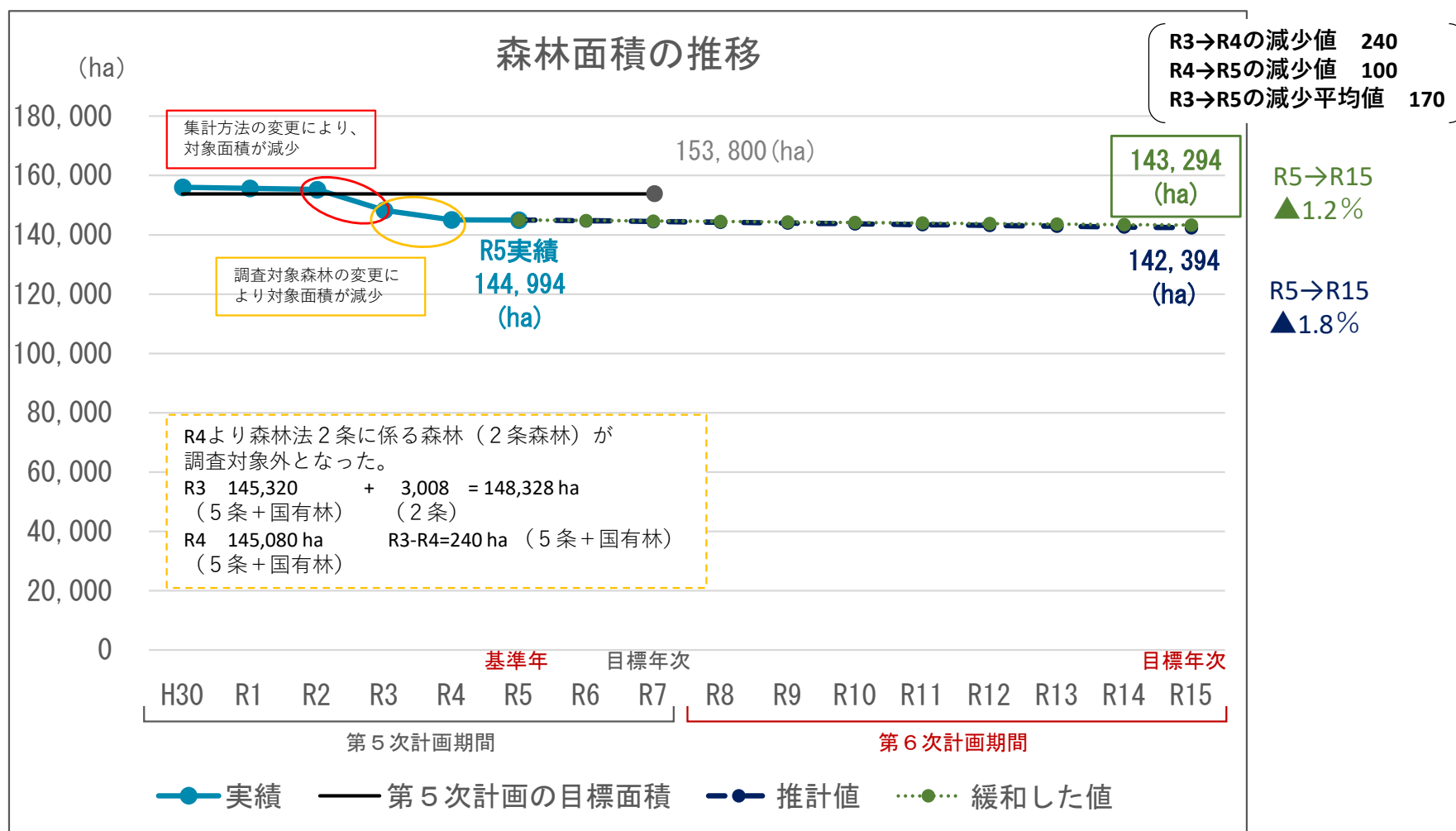
■ 森林 【国有林と民有林の合計】

森林面積は、減少傾向にあるが、都市的な利用への転換が小規模になることが推測されることを踏まえ、面積目標は143,294haとする。森林は、多面的な機能の発揮に重要な役割を果たすため、森林資源の循環利用と森林の整備・保全に努める。

H30→R5の減少平均値（実績） 260

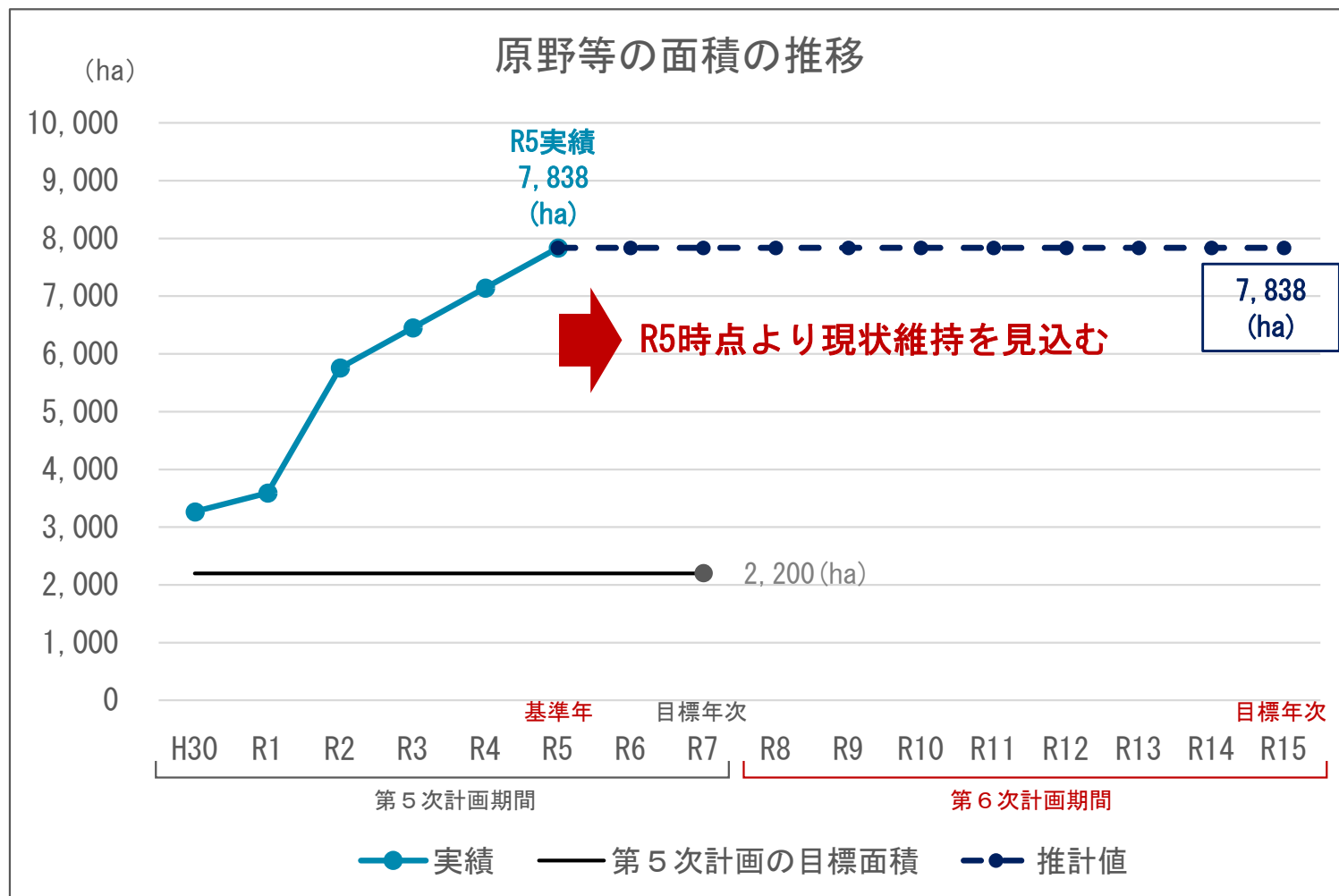
（R2→R4の減少値は異常値のため、含めない）

R5→R15の減少平均値（目標） 170



■原野等 【原野、採草放牧地の合計】

原野等の面積は、植物の自生、野生動物の生息地等として貴重な自然環境を形成しているものもあることから、地域の実情に即して保全を促進していくことを踏まえ、面積目標は令和5年と同程度の7,838haとする。

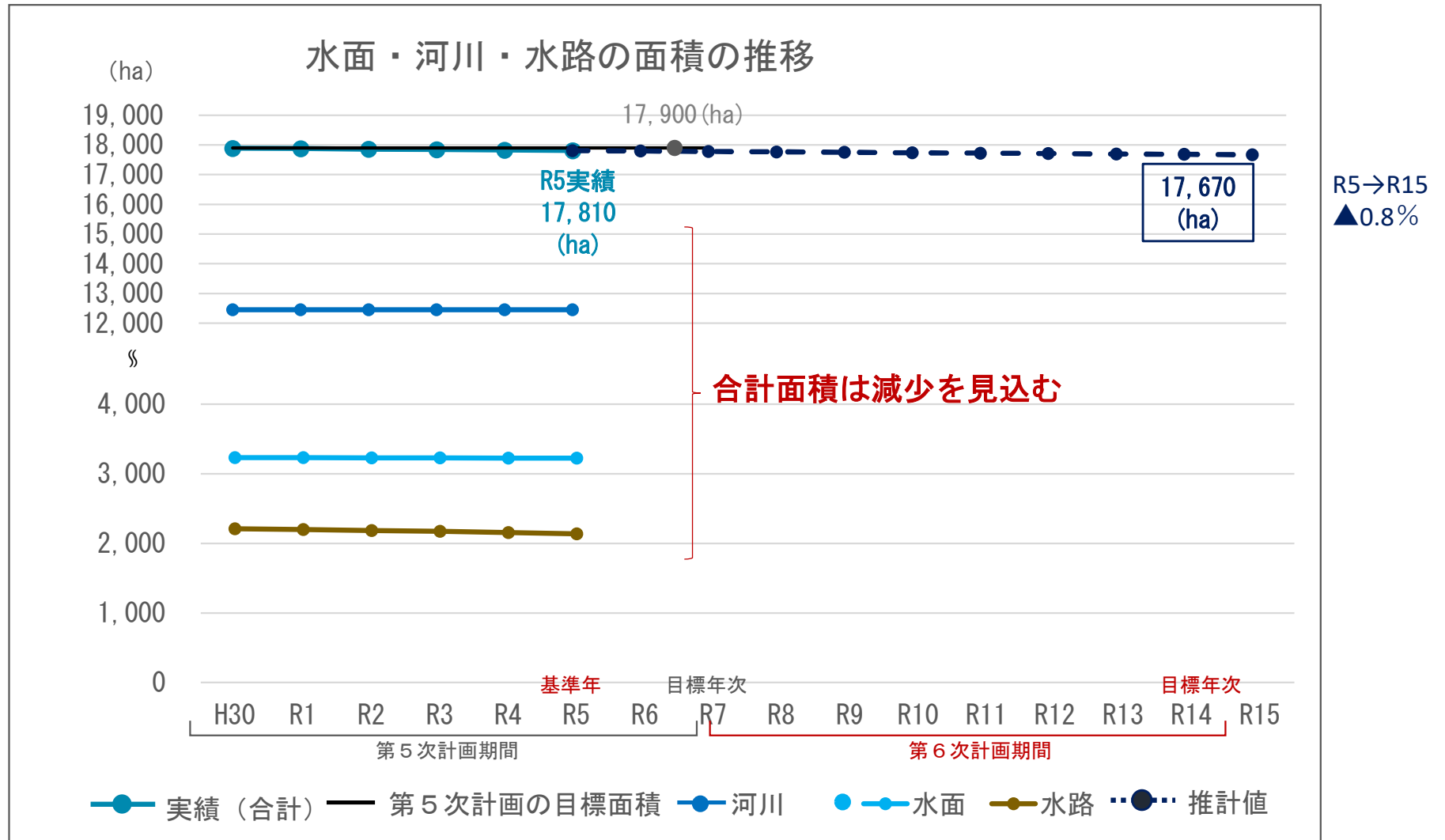


■水面・河川・水路

水面：湖沼及びため池の満水時の面積
河川：一級河川、二級河川及び準用河川
水路：農業用排水路

- ・水面面積は、近年横ばいであり、今後もダムなどの水資源施設の整備計画がないことから、現状維持とする。
- ・河川面積は、近年横ばいであり、今後も大きな変化がないと想定されることから、現状維持とする。
- ・水路面積は、近年微減傾向であり、今後も農地の減少に伴い減少が見込まれる。
- ・これらを踏まえ、水面・河川・水路の面積目標は17,670haとする。

H30→R5の減少平均値（実績） 14
R5→R15の減少平均値（目標） 14

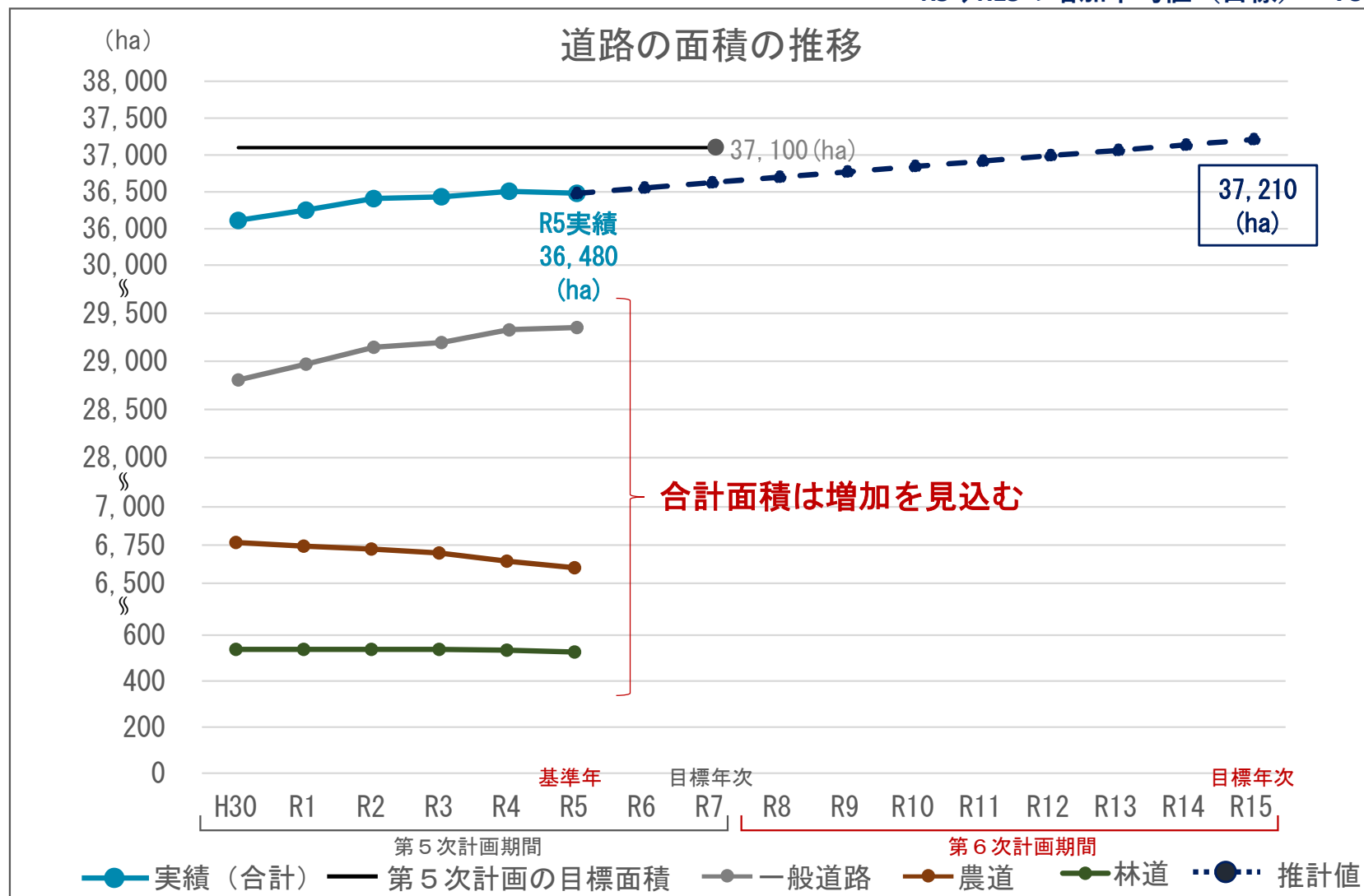


■ 道路 【一般道路、農道、林道の合計】

- ・一般道路面積は、増加傾向にあり、今後も県内外との交流・連携の強化及び災害発生時に交通ネットワークの多重性・代替性の確保のため、計画的に道路整備を進めていくことから、今後も面積の増加が見込まれる。
- ・農道面積は、近年微減傾向であり、今後も農地の減少に伴い、減少が見込まれる。
- ・林道面積は、近年微減傾向であるが、引き続き整備を進めていくことから、現状維持を見込む。
- ・これらを踏まえ、道路の面積目標は37,210haとする。

H30→R5の増加平均値（目標） 73

R5→R15の増加平均値（目標） 73

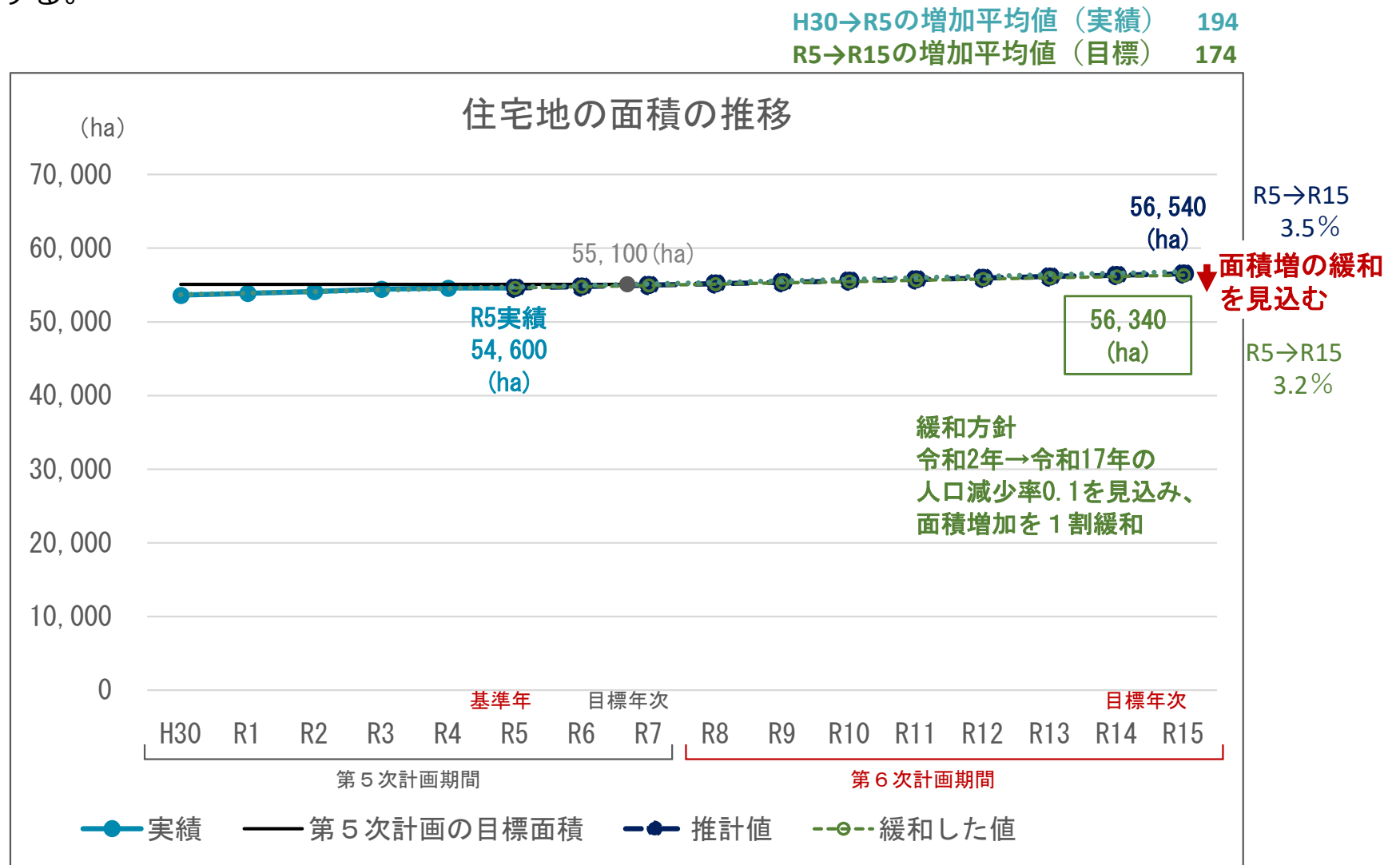


R5→R15
2.0%

■ 宅地 【住宅地+工業用地+その他の宅地の合計】

(1) 住宅地 【住宅用地】

住宅地の面積は、増加傾向にあるが、本県の人口は減少局面に入っていることや、計画的な土地利用によるコンパクトな都市づくりの推進や空き家の利活用など様々な施策を進めることを踏まえ、面積目標は56,340haとする。



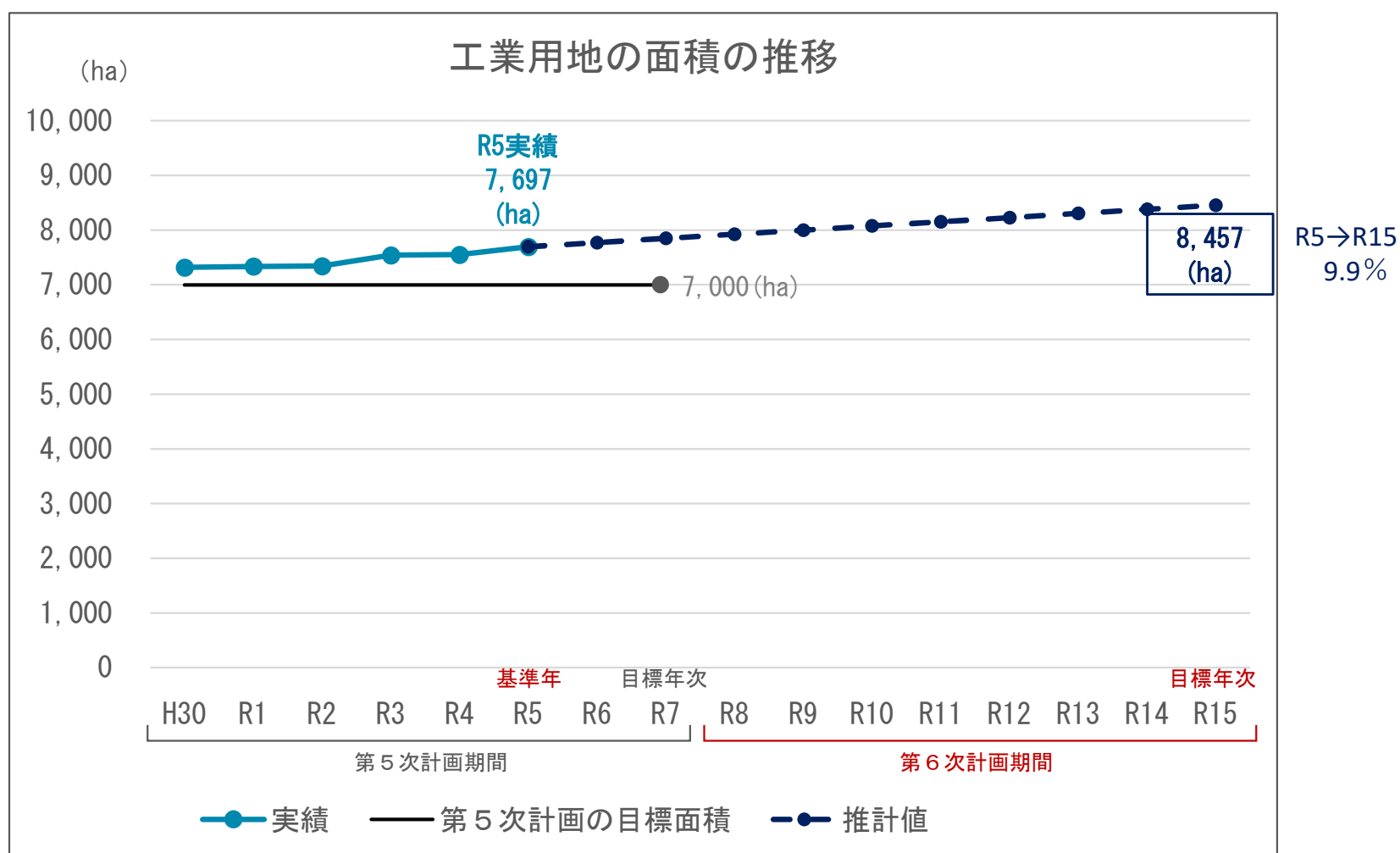
■ 宅地

(2) 工業用地 【従業者4人以上の事業所敷地面積】

工業用地の面積は、増加傾向にあり、本県の産業の持続的発展に向け、機能強化が進む成田空港やインターチェンジ周辺等の拠点と外環道や圏央道などの広域道路ネットワークを生かした産業集積のための受け皿の確保を目指すことを踏まえ、面積目標は8,457haとする。

H30→R5の増加平均値（実績） 76

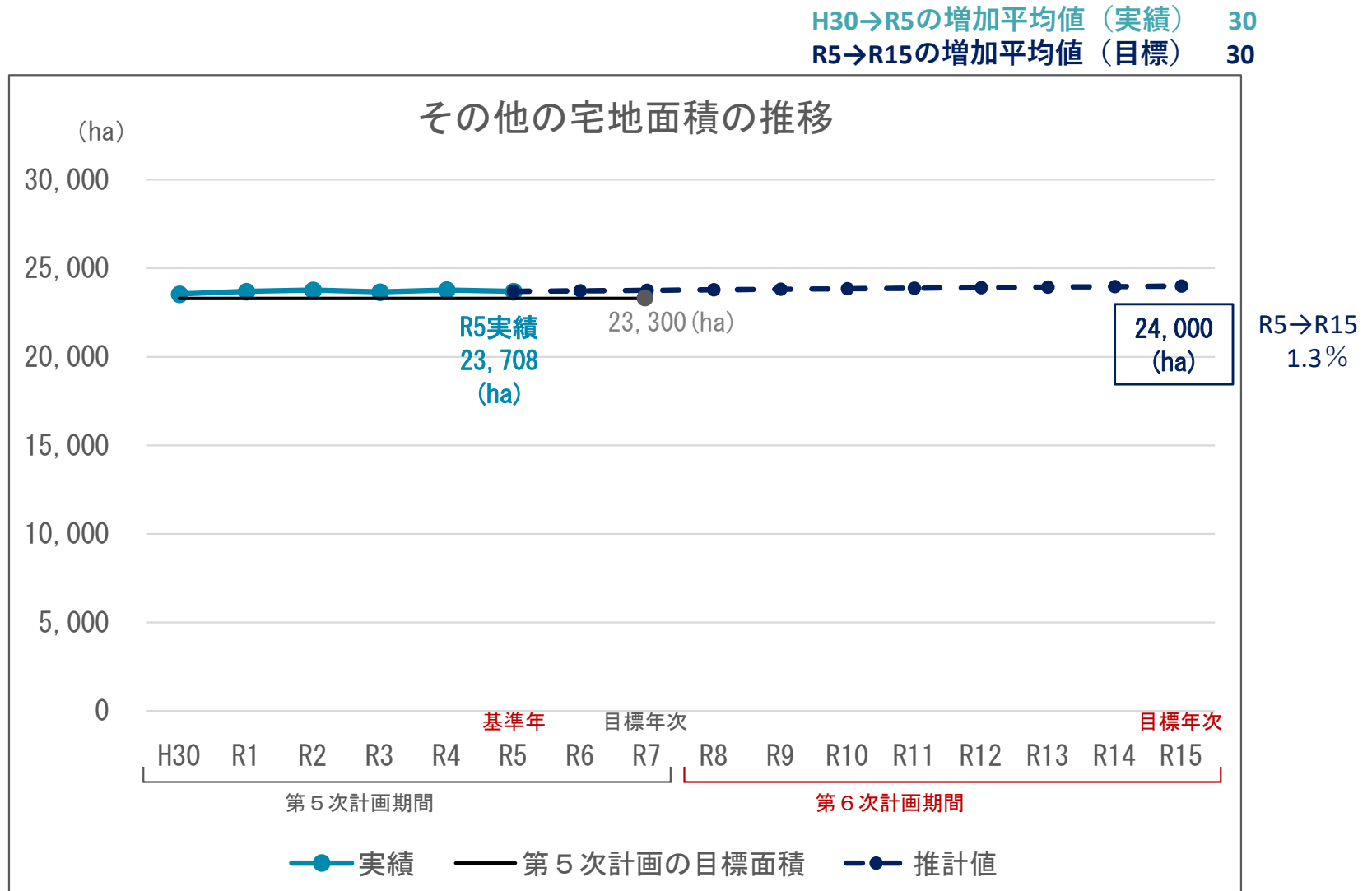
R5→R15の増加平均値（目標） 76



■ 宅地

(3) その他の宅地 【商業業務用地や公共施設用地等】

その他の宅地は微増傾向にあり、今後、計画的な都市機能の集約化、空き地・空き家等の利活用を進める一方で、業務系施設などの立地により増加が見込まれることを踏まえ、面積目標は24,000haとする。



■ その他

その他の面積は、県土面積から農地、森林、原野等、水面・河川・水路、宅地を差し引いた面積。

※公園・緑地、鉄道用地、ゴルフ場、宅地造成中の土地、海岸等の沿岸域などが含まれる。

